

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 きんもくせい)

事業所番号	0671300242		
法人名	医療法人社団 須田医院		
事業所名	須田医院グループホーム		
所在地	上山市美咲町1-2-18		
自己評価作成日	平成 29年 10月 20 日	開設年月日	平成 14年11 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・医療機関が併設されており、状態の変化にも対応でき、適切な医療の提供が出来る
- ・たたみ物等出来る事を手伝って頂き、役割や生きがいのある生活を支援している
- ・季節の行事や外出等を通して生活に楽しみがあるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢化で身体機能が低下した利用者が多くなっているが、一人ひとりの介護計画の充実と家族の意見聴取の充実を図りながら、利用者のできることや役割を見つけるなど、支援の充実を図っている。また、その基盤となる家族と事業所の関係づくりにおいては、月例の「お便り」に写真や文字を多くしたり、毎年継続してアンケートを実施したり、努力している。さらに、職員の育成に関しては、前回評価の目標達成計画を受けて、新人教育の業務マニュアルを皆で検討して作成したり、研修の計画化を図ったりして、サービスの質の着実な向上に努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(協)オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 29年 12月 7日	評価結果決定日	平成 29年 1月 4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と共に、ユニットの理念もフロアに掲示しており話し合いの場等普段から振り返りを行っている。	理念を基に、ユニットで話し合ってそれぞれのケア目標を定め、それをフロアや事務室に掲示したり、月例「月1回の話し合い」の場で確認し合っている。職員は、特に、利用者の「できること」や「役割」について意識しながら、実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内や地域の行事等を調べ参加、交流を図っている。	事業所は、毎月発行している「グループホームたより」を公民館に貼って頂いたり、回覧版に挟んで頂いたり、地域の理解を得よう努めている。また、地域の夏祭りや文化祭に参加する一方、法人の同一敷地内施設等と共同で実施する納涼祭には地域の方の参加を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや、運営推進会議等に参加して頂いているが、認知症について地域に発信はできていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの状況や取り組みの報告を行い、家族や地域の人と意見交換を行っている。	2か月に1回、市職員・町内会長・民生委員・家族代表と職員で運営推進会議を開催し、利用者状況・行事予定・研修参加概要等を報告のうえ、自由な意見交換を行っている。納涼祭に合わせて開催して地域の理解を促進したり、工夫しながら意見を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市の担当職員より意見やアドバイスをもらい実践している。	運営推進会議に市の職員の参加を得る一方、市主催の福祉連絡調整会議に職員を参加させ、情報と意見交換を行っている。円滑に相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に当たるのか話し合いで確認している。また、拘束をしないために他の方法を検討し、巡視や見守り等で対応している。	厚労省の指針や事例を基に作成した「身体拘束ファイル」をユニット毎に備え、新規職員の研修や自己啓発に活用している。また、「月1回の話し合い」やカンファレンスにおいて、拘束のないケアのあり方を皆で検討し、鍵を掛けない工夫等を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてスタッフ会議で話し合いや研修を行いどのような行為が虐待に当たるか学び、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1のスタッフ会議で資料を基に研修を行い理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に、見学をしてもらったり、申し込みの時点で本人や家族に説明を行っている。又、契約の際には契約書や重要事項説明等の説明を行い、質問や意見を聞きながら理解と納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様本人には普段のかかわりの中で、又、家族については面会時等に意見や要望の聞き取りを行い対応している。	利用者からは普段の会話でお訊きしている。家族については、面会の多い方からはその際など、少ない家族からは計画の作成時や行事参加の際にお訊きしている。また、年1回家族にアンケートを行うとともに、毎月の「お便り」を活用して意見を訊く方法を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1のスタッフ会議にて職員の意見や提案を検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の状況や就業環境等についての報告を受けているので把握できている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外の研修に積極的に参加している。又、業務についてのマニュアルが策定されており手技や対応の確認を行っている。管理者は職員の状況について把握し、対応しているが、代表者は把握していない。	内部で年に数回、感染症対策等実践的な学習をするとともに、知識技能に応じ外部研修に参加させ、成果を月例会の会議で復命させている。また、前回の目標達成計画を踏まえて、新人職員研修に用いる業務マニュアル、年間の研修派遣計画を作成した。さらに、年間内部研修計画や個人毎の研修受講記録簿の作成の検討を考えている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に行ったとき等に同業者と交流を図っている。	県・地区GH連絡協議会や行政・団体の研修会に参加させ、職員の技能・ノウハウのレベルアップと合わせて、人的なネットワーク作りを促進している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査やアセスメントを行い、本人、家族の臨む生活の把握を行う。又、その情報をスタッフ間で共有し、利用者との信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査やアセスメントを行い、本人、家族の臨む生活の把握を行う。又、その情報をスタッフ間で共有し、利用者との信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い必要なサービスの見極めを行っている。必要であれば、他のサービスの説明等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は自分で行ってもらい役割を持って生活できるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の臨む生活の為に、家族と情報を共有しつつ、協力できることはして頂きながら連携して支援にあたっている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人や、知人が気軽に面会に来られる様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同フロアで食事をしたり、TVを見たりと過ごしてもらっている。トラブルがありそうなときは、スタッフが間に入って対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡による退所が多い。入院の際はホームに戻るかどうか、病院や本人、家族とやり取りをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い本人の意向に沿ったプランを作りそれに沿って支援している。又、本人の意向の把握が難しい時は、本人本意の生活が出来る様支援している。	利用者や家族の思いや意向は、利用開始前の聞き取りや日常会話から把握され、センター方式シート等に記載されている。また、年1回の家族アンケートや面会の際は、利用者・家族の意向や思いを率直に訊くよう、日頃から努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行いスタッフで情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、食事や排せつ等の観察や記録を行い、情報を共有し、心身の状態を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護員に担当の利用者を決め、毎月のモニタリングを行ってもらっている。その中で、出来ている事や可能な事変更点等を話し合いプランに反映できている。	毎月担当者がモニタリングを行い、全員で3ヶ月毎にカンファレンスを実施している。そして、家族の意向を把握しながら、原則的に6ヶ月毎に、必要な場合は随時介護計画を見直している。計画書には、特にできることや役割について留意され、具体的に記載されている。前回の目標達成計画を活かす努力が見られる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護日誌や健康管理表等の記録を行いスタッフ間で情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で行っているオムツの支給を利用したり、地域のイベントに参加し交流している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医がホームの併設の医療機関の利用者が多く連携が出来ている。また、主治医が他の医療機関の場合でも情報の共有に努め、適切な医療を受けられるように努めている。	利用者や家族の希望する医師の診察を、家族や職員の付添で受けている。併設医院の診察も定期的に受診できる。日頃のバイタルや心身の状況をまとめた介護サマリーを作成して、緊急受診時にも的確な診断に寄与するよう準備している。診察結果は記録に残し、家族・事業所・医師が連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態について、併設の医療機関の看護師と相談できる体制が出来ている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関、他の病院とも、入退院時にはサマリー等により情報の共有を図り、御家族とも協力し安心して治療が出来る様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等に重度化や終末期に関するあり方について、ホームで可能であることとそうでないことを説明しつつ、入所時やその都度、意向を確認している。	重度化や終末期の対応については、入所時に、できることやできないことを詳しく説明している。医療機関併設メリットを活かし、日頃から健康状態を詳しく把握するとともに、状況の変化に応じて本人及び家族から重度化や終末期の対応についての意向を訊いて介護サマリーに記載し、家族、職員、医療機関で情報の共有化を図っている。看取った経験もある。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがある。又、年に1回消防署協力のもと心肺蘇生等について指導を受けている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち合いの防火訓練を行っており、併設の病院、福祉施設と協力体制を築いている。	今年度は年1回、消防署の参加を頂きながら、敷地内医療・福祉施設と協力して、避難訓練をしている。地震の後の火災等も想定し、隣接施設職員の協力を得て車いす利用者も建物外への避難を行っている。食料等の備蓄はある。夜間や地域の協力体制はこれからである。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間であり人生の先輩として人格を尊重し声掛け等の対応を行っている。	ユニット会議等で接遇マニュアル等を基に学習し合い、人格や誇りを傷つけないように、一定の節度を持って対応している。特に、トイレや入浴支援においては、声掛けでの言葉の選び方、声の大きさについて配慮しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の仕方や衣服の選び方、日頃の過ごし方等で、声掛けを行い本人が自分の希望を表せ決められるよう支援している		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意見のいえる方は出来るだけその人らしい生活が出来る様対応し、意見を伝えるのが難しい方でも本人本意の生活が出来る様支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意見のいえる方は本人と共に希望に合わせて着るものを選んでいる 人によっては昼夜共パジャマで過ごす方もいる。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好や能力に合わせた食事を提供している。食事前にエプロンの準備等共に手伝ってもらっている。食事自体の準備はほとんどスタッフがやっている。	3食とも、2階の「かりん」で調理を行い、各階に分配し、出来立ての温かい食事をいただいている。献立は、季節感を大切にするとともに、行事食や外食で楽しさを感じることができるよう配慮している。調理や後片付けは、高齢化が進み、能力・意欲のある少数の利用者から参加してもらっている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好や状態に合わせた食事を提供している。食事量や状態の観察、日誌への記録を行い毎日の食事や水分量を把握している。食事のほかに午前、午後と水分補給を行っている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、夕食後に口腔ケアを行っている。夕食後は義歯の洗浄、消毒を行っている。うがいや口腔清拭等本人に合ったケアの対応を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心に配慮し声掛けやトイレ誘導を行っている。状態に合わせてオムツ交換で対応している方もいる。	利用者は高齢化しているが、排泄チェック表で一人ひとりのパターンを話し合いながら、なるべくトイレで便器に座って排泄できるよう支援している。さりげない誘導や、適切なパットやおむつの使用に心掛けている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品をとってもらい排便を促している。また、下剤が処方されている方については排便の状況を見て対応している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大浴場にて平日の午前中に入浴を行っている。週に二回は入浴できるようにし、状態によっては清拭を行っている	利用者の希望を聞きながら、概ね週2回程度の入浴支援を行っている。時間をずらした声掛けや、清拭だけとか、無理強いしない対応を心がけている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自室や共同フロア、ソファ等で休息や入眠できるよう環境の整備や支援を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームの職員として看護師がいるわけではなく、スタッフの全員が薬の内容まで理解しているとは言えない。薬情を確認し対応している。何か変化等あった際は主治医と相談し対応している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や本、TVを見る等本人に合った生活が出来、たたみ物やカーテンの開け閉め等出来る事を手伝って頂き、やりがいのある生活が出来る様支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、行事等で外出の機会を作り支援している。家族にも協力していただき外出支援行ってる。	上山駅のロータリーや菜園等への散歩など、外気に触れる機会を大切にしている。また、毎月、祭り・伝統行事やあじさい見学・花見や紅葉狩のドライブなどを実施したりしている。家族の協力を得て、実家に帰宅したり、外食をしたりすることを含め、出来るだけ外出の機会を多くできるように努めている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理の困難な利用者が多く所持していない		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の郵便物等わたるようにしている。手紙を書く方は現在いないが家族等に連絡を希望する方については対応している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル等に花を飾ったり、季節が分かるような掲示物や写真を飾っている。又、その日の状況に合わせて、空調や明るさ等調整し、快適に過ごせるような環境作りを行っている。	居間は、明るく広い。騒音もなく、温度の調節も行われている。壁面には職員と利用者で作成した飾りや絵も掛けられている。掘りごたつのある畳敷きもあり、ゆったりとした居住空間となっている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中で本や新聞を読んだりソファでTVを見たり、他の利用者と話が出来たりという環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVや写真等居心地よく生活できる環境を作っている。	居室には、馴染みのテレビや冷蔵庫なども置かれている。壁面や枕元には家族の写真や飾り物が掛けられたりしている。思い思いの居心地の良さの中で生活していると感じられる。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの部屋に名前や写真を掲示し自分の部屋が分かるようにしている。		